

「歴史認識」の違いを知ることから

— 韓国平和活動家・金英丸さんのお話

本誌5月27日、法学館研究所主催「日本の改憲問題と日韓関係」の講演会より、主催者の許可を得てまとめさせていただきました。



金英丸（キム・ヨンファン）
1972年、韓国忠清北道忠州（チュンジュ）市生まれ。西江大学大学院社会学科卒業。1997年、北海道朱鞠内で強制連行犠牲者遺骨発掘に始まった日韓共同ワークショップ（現在「東アジア共同ワークショップ」）に参加、その時が初めての来日。2002年から2004年まで高知の「平和資料官・草の家」事務局長。

●私（金英丸キム・ヨンファン）は専門家でなく、日本の平和活動家の皆さんと一緒に働きながら学んできた者なので、そういうことを通じて考えるようになったことのいくつかをお話しさせていただきたいと思います。

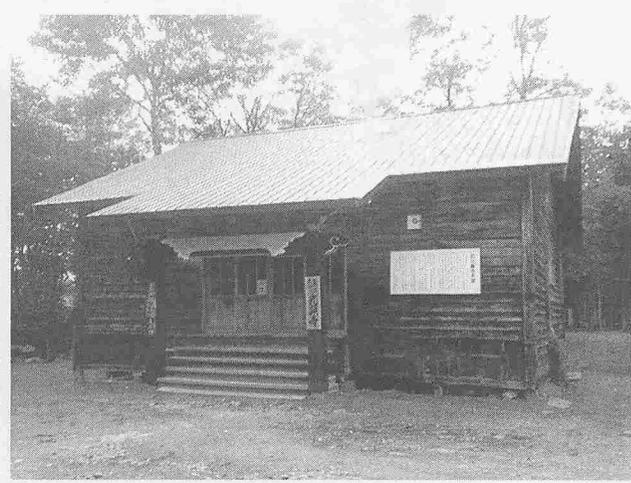
祖父の代に——まだ当時は強制連行ではなかったが——日本に来たのが最初で、その後母も来日し、2つの家族が一つになるような思いも経験したといえます。在日の人たちの歴史は、ほとんど皆がこういう過去を引きずっています。個人的にはハカタからオホー

ツクまで生活の場を変えた人だっているんです。それも、貧しい者は連行され、こきつかわれたあぐくに殺され、金持ちたちはよい大学に通っていたのです。

●主として携わってきたのは、強制連行された朝鮮人・韓国人の遺骨の収集と返還です。もちろん、このあいだには、遺骨と戸籍の調査という煩瑣な手続きも含まれます。これらの経験を通じて、高知にある「草の家」

——1989年創立の日本でも歴史ある平和博物館の一つです——で、4年間ボランティアをしたり、現在はソウルの平和博物館でも活動しています。

●北海道の北端近く、シユマリナイという人工湖があります。王子製紙のつくったものです。そのほとりに、建設犠牲者の碑があるのですが、名前も刻まれていないし、何人が犠牲になったかも書いていない。朝鮮人だけでなく、日本人も含



朱鞠内旧光頭寺・笹の墓標展示館、雨竜ダム（朱鞠内湖のダム）と深名線鉄道工事におけるタコ部屋労働、強制労働の歴史を展示する資料館

まれているようだが、「タコ部屋」の人たちとしか聞かなかつた。

その隣にお寺があり、そこからは位牌が出てきたし、調べるうちにお骨も出てきた。こういう不思議な現象を韓国語では、「遺骨が呼ぶ」と言います。このようなお寺こそ、森村誠一も触れている「笹の墓標」展示館とも称すべきものでしょう。

●安倍が総理大臣になったが、彼は祖父の岸信介のことを少しも悪いとは思っていないのでしょう。「国防軍をつくる」という主張は、自分たちの子どもや孫が軍人になることを選んだのと同じです。韓国でも、パク・チヨンヒの娘のパク・クネが大統領になった。パ



平和博物館（ソウル）での企画展「子どもの平和の本」展にて 子どもたちが目隠しをして視覚障害者のことを考える

ク・チョンヒは戦後大統領になる前に、満州で陸軍士官学校に入ったという、相当な「ワル」だったことを忘れるわけにはいきません。韓国人も日本人も、過去の事実をちゃんと知らないのは困ったことです。慰安婦のことも、竹島のことも、教科書には書いてあっても、自分のこと、自分の家族に引きつけて理解していないのはとてもまずいと思います。それともう一つ、日韓というくくりだけではなく、東アジアの市民として、という意識を明確にもたないと、地域の平和はいつまでも保たれないということがあります。

●よくいわれる「歴史認識」の問題ですが、共通の知識にもとづいて、共通の歴史認識をもてるとしたら、こんなにすばらしいことはないでしょう。でも、そこまで一挙に行かずとも、お互いの認識の違いを知ることが第一歩ではないでしょうか？

●最後に平和博物館ですが、ベトナムに行つて、韓国軍による慰霊碑が多いことに驚きました。調査活動と「ベトナム、ごめんなさい」という思いが土台になってつくられるようになったのです。小さいですが、ソウルの繁華街にも平和博物館があります。8名の専従の背後に、800名の支援者がいます。原

爆の展示などなど、多くの展示をしてきました。皆さん、ソウルに来られたら、ぜひお訪ねくださいますように。

まとめ・高橋武智
(たかはし・たけとも / 本誌編集委員)

2013강정생명평화대행진(7월28일~8월4일)

구름비를 감싸는 인간띠잇기

8월4일 낮12시

해군기지공사장정문에서 사업단정문을 지나
평화센터 사거리를 돌아 강정포구까지 이어져
해군기지공사장과 구름비를 감싸는 인간띠를 함께 이어요!!!

행복한 얼굴로 사람들이 모두 강정간다

2013年平和大行進（7月28～8月4日）ポスター
（平和博物館建立推進委員会HPより）